

HIVI

ハイヴィー—AUDIO VISUAL MAGAZINE 2003

www.stereosound.co.jp/hivi



創刊20周年記念 特別増大号
秋の新製品特集 第2弾
プラズマと液晶テレビの本命を探せ！
地獄の黙示録
お手頃液晶プロジェクター
画質チエック

20th
ANNIVERSARY

繊細かつ高密度に音楽を聴かせる
1ビット方式デジタルパワーアンプ

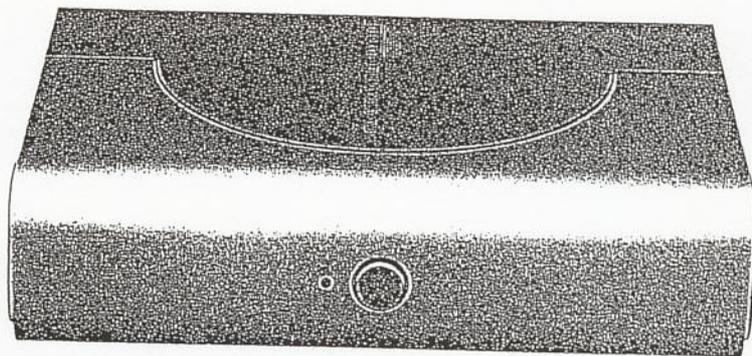
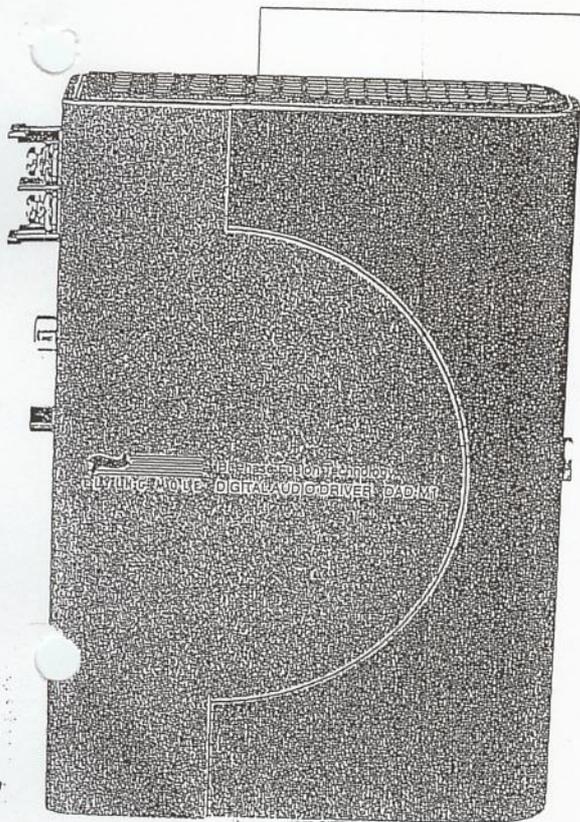
小原由夫



MONAURAL POWER AMPLIFIER FLYING MOLE DAD-M1

¥40,000 (1台)

●定格出力:100W (8Ω)、160W (4Ω) ●全高調波歪率:0.02% (1kHz、50W出力時) ●周波数特性:DC~50kHz (8Ω、+0dB/-3dB)、DC~25kHz (4Ω、+0dB/-3dB) ●S/N比:120dB ●入力感度/入力インピーダンス:1V/10kΩ ●接続端子:オーディオ入力1系統 (RCA)、スピーカー出力1系統、入力ボリューム1系統、他 ●消費電力:20W (100W/8Ω時、待機時6W) ●寸法/質量:W152×H41×D121mm/約730g (1台)
●問合せ先:(株)フライングモール ☎053 (416) 1720



PROFILE

外付けHDDGのような、あるいは横にスロット口でもあったならば、FDDGのようにも見える本機は、静岡県浜松市を拠点としたエレクトロニクス企業が独自に開発したモノラル型の1ビット方式デジタルパワーアンプ。電源とアンプの回路を融合した、特許申請中という「バイ・フェイス・フュージョン・テクノロジー」により、総合的な電力効率85%を実現し、圧倒的な小型化と自然空冷(低発熱)を達成。この独自技術のキーマツとなる3つのLSIは、汎用品でなく、すべて自社開発とのこと。少ない部品点数と小型化を実現しながら、4Ωで160Wの定格出力というのだから驚異的なスペックである。

入力にはRCA端子のみで、ボリュームを装備。スピーカー端子がネジ式ターミナル

IMPRESSION

である点がやや使りにくいかもしれない。標準的な音量よりもやや大きめの再生音による2時間ほどの試聴だったが、DAD-M1のボディはほんのり温かいという程度。なるほど低発熱だが、もっと驚いたのは、低インピーダンスのスピーカー、ウェストレイクBOSS M6VNFをここまで長時間鳴らしていても悲鳴を上げなかったこと。立派である。

本機固有の魅力としては、繊細さや粒立ちのよさがありながら、決して無機的にならずに高密度に音楽を聴かせる点。中域の充実した、実体感豊かなサウンド。周波数レンジ、ダイナミックレンジとも取り立てて不満はないが、こそぞとところどころでの低域の押し出し感という、馬力がほしいのは事実だ。

本機のACCインレットは、俗にいうメガネ型コネクタ。電源ケーブルの交換で音がどう変化するか、機会があれば試してみたい。低域の制動感やエネルギー感を変えられそう。要望点としては、ボリュームを省くことと、縦置き・横置き対応のスタンドの用意である。省エネとエコロジーが叫ばれる今日、マルチch時代のAVでは、こうした仕様のモノラルアンプがもっと注目されていい。